

企画展 「公爵 徳川慶喜家」



写真左：徳川慶喜 写真右上：2代慶久 写真右下：3代慶光

A. 概要

明治 35 年の公爵・徳川慶喜家の誕生は、明治維新の総決算の一つである。維新最大の負の遺産を背負い込んだ慶喜は、授爵によって明治国家体制の中核に組み込まれることになった。

彼のDNAは同家二代慶久、三代慶光に受け継がれる。本展ではこれまで焦点を当てられなかった二人の足跡と内実を紹介し、華族制度の廃止により公爵家の歴史が終焉を迎えるまでを初公開資料 50 点余りを交えて辿りたい。

B. 展覧会情報

1. 展覧会名称： 公爵 徳川慶喜家



2. 展覧会会期： 前期 10月8日（土）～11月13日（日）
後期 11月15日（火）～12月23日（祝）
3. 入館時間： 午前9時30分～午後4時30分（午後5時閉館）
4. 入館料： 歴史館・戸定邸共通券 一般240円 高校大学生160円
展覧会のみ 一般150円 高校大学生100円
* 20名以上には団体割引があります。
5. 休館日： 月曜（祝・休日の場合は開館し、翌日休館）

C. 内容詳細

1. 慶喜、その前半生

徳川慶喜が将軍後見職、禁裏守衛総督、征夷大將軍として行った政治活動を紹介する。

2. 公爵家創設前夜

すべての官職から退いた慶喜は29年間静岡で隠棲生活を送った。後の公爵授爵に繋がるこの時期の意味を考える。

3. 公爵家の誕生と継承 ～慶喜から慶久へ

静岡から東京へ再び移住して約4年後、慶喜は公爵の位を授けられた。その背景と意味を探り、徳川慶喜家の暮らしを「徳川慶喜邸日誌」の記述や写真、伝来品などによって紹介する

4. 国際派公爵と有栖川宮家最後の王女 ～慶久と実枝子夫人

慶喜の嗣子・慶久は、有栖川宮威仁親王の第二王女・実枝子女王を妻に迎えた。慶久は、東京帝国大学を卒業、日本赤十字社や日華協会等に携わるなど国際交流の場で活躍した。家庭にあっては、実枝子夫人や家族、友人達とともに流行文化の最先端を享受する生活を送った。

5. 少年公爵と妃殿下 ～慶光と姉・喜久子妃

38歳の若さで父・慶久が急逝、公爵家はまだ幼い9歳の慶光に継承された。慶光の姉・喜久子は、高松宮宣仁親王に嫁いだ。高松宮家は有栖川宮家の祭祀を引き継いでいた。長じて宮内省に勤務、妻を迎えた慶光に戦争と時代の波が押し寄せる。

6. 公爵家の終焉

慶光が出征、妻・和子は子供たちを、職員達は公爵家の家政を、必死に守り抜いた。慶光の帰還を経て、平穏を取り戻したかに見えた戦後、日本国憲法の施行に伴う華族制度の廃止によって、徳川慶喜家は公爵家45年の歴史に幕を下ろした。

【問い合わせ先】

■松戸市教育委員会 生涯学習部 戸定歴史館

所在地：松戸市松戸714-1

TEL：047-362-2050 FAX：047-361-0056

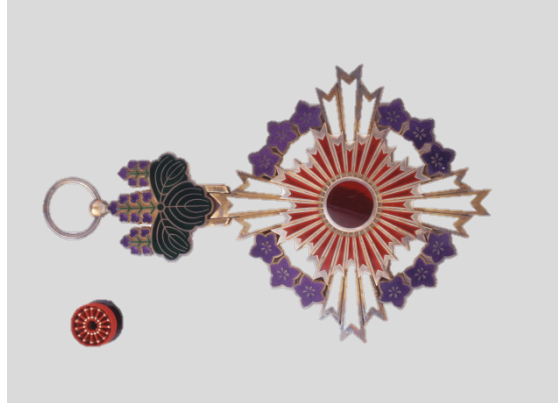
詳しくはこちら（松戸市公式ホームページ 戸定歴史館）

<http://www.city.matsudo.chiba.jp/tojo/index.html>

参考情報(展示予定品一部紹介)



徳川慶喜が孝明天皇から拝領した中啓

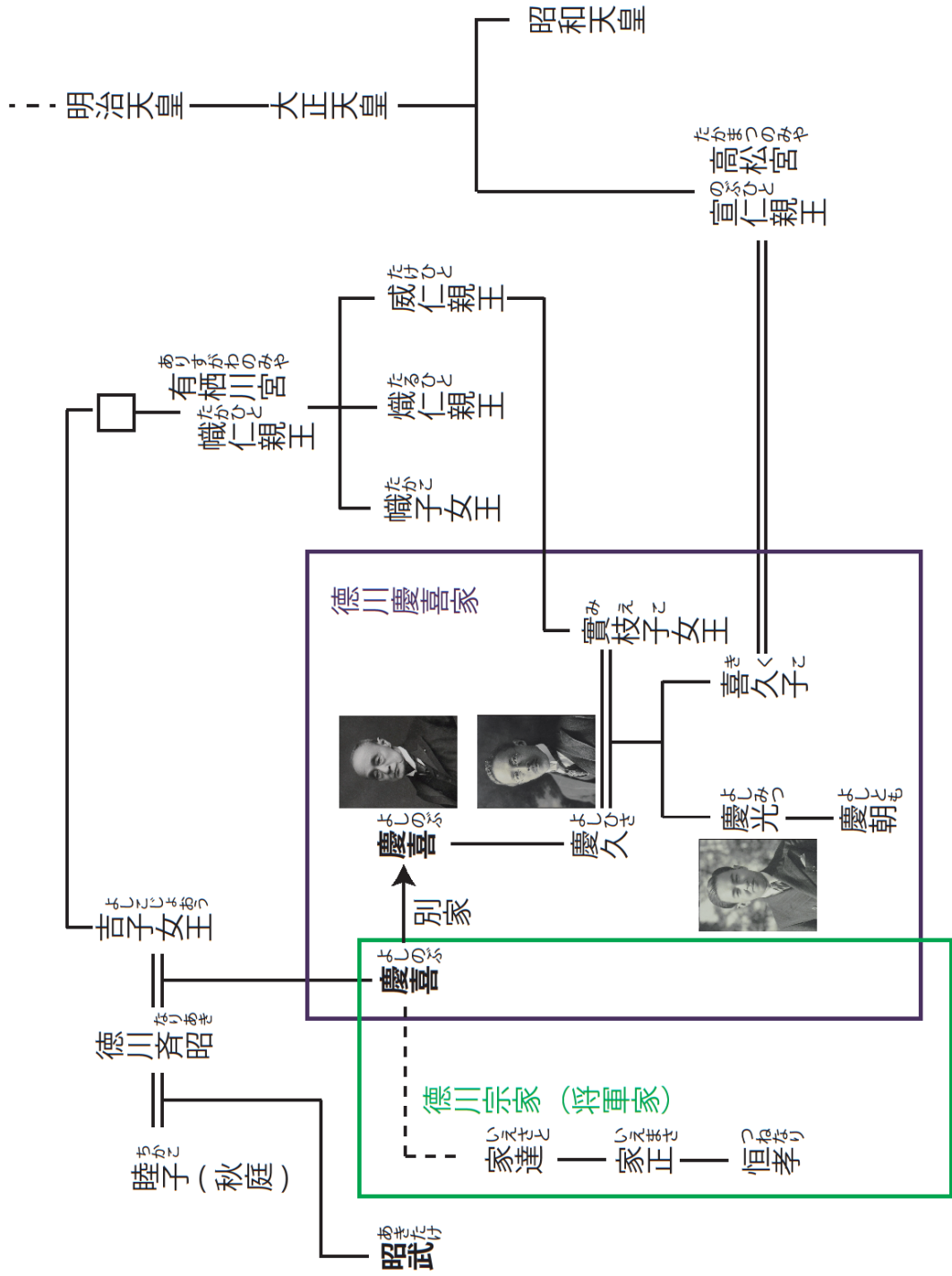


徳川慶喜が授与された
勲一等旭日桐花大綬章



喜久子妃がお描きになった
日本画 《小鍛冶之図》

徳川慶喜家相関図



徳川慶喜家の女性



徳川美枝子(実枝子女王)

1891年(明治24年)2月14日
 - 1933年(昭和8年)4月25日)
 有栖川宮威仁親王第二女子
 徳川慶久へ降嫁



宣仁親王妃喜久子(徳川喜久子)

1911年(明治44年)12月26日
 - 2004年(平成16年)12月18日)
 徳川慶久二女
 高松宮宣仁親王と結婚



徳川和子(松平和子)

写真右
 写真左は夫・慶光
 1917年(大正6年)7月31日
 - 2003年(平成15年5月29日)
 会津松平家 松平保男子爵四女
 徳川慶光と結婚